



NPO 花たば第 21 回定期総会報告

第 21 回花たば総会は、6 月 23 日、ろっこう医療生協なだ組合員集会室において開催されました。総会議長に三木平さんを選出。理事長、ご来賓の挨拶の後、提案した全ての議題は賛成多数で可決されました。今年は役員改選がなく、午後からの「シンポジウム」や 10 月開催の「花たば会員作品展」のお知らせも含め、コロナ禍ではできなかったイベントを提案。期待が寄せられた総会になりました。



総会の様子

花たば会員作品展ご案内

10月9日(水) 9時 ~ 13日(日) 15時 (8日搬入、13日15時から撤収)

*作品募集しています。9月30日まで

*期間中のボランティアさん、募集しています。

①8日の搬入作業、

②期間中の会場管理

9時~13時、13時~17時、17時~21時

③期間中の喫茶(100円コーヒー)コーナー

④13日の撤収作業 等

※ 詳細は花たば事務所におたずねください。



■NPO 花たば 20 周年記念 6.23 公開シンポジウム 報告

花たば活動 20 年 歴史をふまえ 未来をさぐる

シンポジスト

谷口敏光（ろっこう医療生協副理事長） 森 義和（灘区社会福祉協議会）
慈 憲一（灘中央筋商店街） 村山メイ子（ひょうごん福祉ネット代表）

コーディネーター

須見恭子（花たば理事長）

公開シンポジウムは、およそ 40 人の参加者を得て、灘区民ホールで 3 時間にわたる熱心な意見交換が行われました。紙面の都合上、編集者の独断で、その一部をご紹介します。



谷口 「誰 1 人取り残さない健康作り」、「自然に健康になれる環境作り」が健康な日本を作るための方針として言われています。自然に健康になれるには三つの柱、「社会との繋がり」、「健康になるような食環境」、それに「居心地よく歩きたくなるまち作り」という、社会環境の質の向上が必要です。衛生社会環境を変える、社会基盤を変えていくしか、それを進める方策はないかなというようなことがわかっています。

社会との繋がりという意味では、「いつでも 1 人になれる、いつでも誰かに会える、いつでも誰かに任せられる」という花たばさんの 3 つのスローガンです。これらがもっともって生きて、生かしていかなければいけないことかと思えますし、医療生協も人とつながり、それから運動、食生活、健康を守るために、皆さんと気持ちよく健康作り運動が広がっていくようにやっていかないといけない。花たばさんと一緒に頑張っていきたいと思えます。

森 花たば 20 周年ということですが、どんな団体や会社、グループも 20 年存続して、活動が続くのはすごいことです。

なぜ 20 年続けてこられたのだろうか。一つは本当に地域に根ざして、地域住民からちゃんと認められている。もう一つが、仲間がいるということだと思います。誰か 1 人がこんなことやりたい、地域でこうなったらいいよねってやっても、1 人でできますかということですか。やはり限界はありますよね。ゴミ出しサポートでも、誰かスタッフの 1 人で全部回せるのかみたいなそういう話でもないですね。いろいろ一緒に頑張っていく、思いを同じにして、同じ方向を向いて頑張っていける仲間がいるところが大事だと思います。そういうところができているのだろうかということですか。

花たばの活動は、地域の大事な資源になっております。ぜひ続けていっていただけたらなと思っておりますし、社会福祉協議会としても、地域福祉というところで、いろいろご協力させていただけるところがあると思えますし、一緒に住みやすい町にできたらいいなと思っております。

慈 商店街も高齢化問題がありました。今は理事長や理事が若返り、何とか継承できていると思います。ほっと花たばさんに影響されたかもしれませんが、去年から灘中央筋で「ヘルスアップストリート」という取り組みが始まりました。水道筋は、整骨院や内科などお医者さんが多いのですが、その先生方に毎月第3木曜日に来ていただいて、無料で（商店街が負担して）健康の話をさせていただき、皆さんに聞いていただくという取り組みが始まりました。活性化というと、どうお客さんを呼ぶかとか、商売に繋げるというのが中心になるのですが、それも大事ですけど、そこに住まれている方の健康とかを、商店街も考えていかないといけないと、去年から始めました。

実は摩耶山の森の手入れをするNPOを作っています。笹刈りなどをしますが、ザーッと全部刈ったら駄目で、山で大切な風と土と水、この三つの流れを良くしてあげると、山は勝手に健康になります。自然に健康になるという健康作りのお話がありましたが、山も全く一緒で、風の流れ、水の流れを良くしてやれば、勝手に山が、木が元気になります。多分人間も同じで、風通しであるとかが大事ではないかなというのを、手入れしながら感じます。

今の若い人たちは、震災等が各地で起きるのを見て、人と人を繋げるようなことに興味を持っています。その学生たちに最低賃金は払えるように自主事業で稼ぎながら、最終的には地域に落とし込んでいきたいと考えています。継続のためには、人件費であるとか、収益は必要です。

村山 東灘ネットワークは、1999年に今の御影市場旨水館に入りました。高齢者に優しい市場を目指すということでしたが、市場の皆さんからNPOの活動を理解してもらうまでに随分時間がかかりました。でもやはり市場であったから活動が活発にできた、市場であったから人が集まってくる。お母さん方や高齢者の方にとってもそうですけど、市場だから安心安全ってということもあって、市場の賑わい作りには貢献できたと思います。花たばさんには、地の利をいかしてもっともっと頑張ってもらいたいと思います。

活動の大前提は、住民同士の助け合いです。地域のNPOというのは、地域の課題を解決していくこと。それを私達は行政にもできないこと、事業所や企業でもできないことを住民同士の助け合いでやっています。介護保険でできないことから始めましたが、今ではありとあらゆる相談（家、生活困窮など）も受けています。住民同士の、これまで生きてきた経験と知恵を出し合ってお困りの方に寄り添ってやっていく。それが私達のメインの活動です。ただ本当に時間と手間がかかり、全く収入にならない事業です。そのために、自主事業を取り組んでいます。阪神御影駅の高架下再開発など厳しい現実と直面しています。

須見 私達花たばの活動に参加してくれているボランティアさんは、地元の方、近所の方が多く、市場の方とも何かしら繋がりががあります。外からのボランティアではなくて、地域の方がボランティアとなって活動していることが、地域に根付いた原動力かも知れません。こどもの居場所事業は、これまで以上に広く、深く地域とつながる機会になりました。基本の住宅事業が15年を迎え課題はたくさんありますが、皆さんの今日のお話しをもとに、頑張っていきたいと思っています。

ほっと花たばから

お知らせ 開店3周年記念・半額セール*

9月16日(祝・月)～19日(木)

皆様のご来店を、お待ちしております。

お願い リサイクル品の提供をお願いします*

‡リサイクルの商品入れ替え時期になりました。[秋から冬の衣類を中心にご寄付をお願いします。](#)

‡住まいの雑貨(タオル・ハンカチ・洗剤など)、台所用品・掃除用品については、新品をご寄付ください。

‡自然に優しい重曹(食用グレード)をおいています。見当たらない時は、スタッフに声をかけてください。

‡文庫本を楽しみに、本好きの方がゆっくり見ていけます。レジャ
喫茶での会話につながることも。眠らせていた本をご寄付くださ
い。(カバーがないもの、茶色に変色したものは遠慮ください)



‡店内では、100円コーヒー(紅茶、お茶)のお茶処花たば(月・火・木・金・土)を開
いています。一人でも気楽にお立ち寄りください。

***こどもの居場所「ほっとほっと」では、こども食堂で提供する
食事のために、お米のご寄付をお願いしています****

コミュニティハウス花たば — 入居者募集中

随時、見学受付しています。

お試し短期入居も受け付けています。

大切な、自分自身のこれからの生活を検討する選択肢に、コミュニティハウス花たばを加えてください。詳しいお問い合わせは、[花たば事務所 Tel 078-801-6632](#)まで



編集後記 9月になっても暑さが続いています。お変わりありませんか。遅くなりましたが、第31回総会報告と総会後に開催のNPO活動20周年記念シンポジウムを、合わせて報告させていただきました。医療生協の谷口先生をはじめ、ご出席の各シンポジストの皆さんのお話しは興味深く、機会があればそれぞれの方から、1時間くらいの講演をしていただきたいねと、実行委員会のメンバーの感想がありました。スタート時の希望や理念を、20年を経た「これから」にも生かしていけるように、法人としての体力を整えながら取り組もうと決意する内容でした。10月の作品展には多くの皆さんの来場をお待ちしています。(H.O)